



学校だより

9月号 令和7年8月29日発行

朝霞市立朝霞第一中学校

〒351-0013朝霞市膝折2-31

TEL: 048-461-0076

FAX: 048-467-4741

E-mail: lchuu@asaka-s.ed.jp

目指す学校像 希望を胸に未来へ前進する学校



魚の釣り方を学ぶ



校長 唐松 善人

本校の学校教育目標の1つに、「自ら学ぶ生徒」があります。本校では、授業において能力を伸ばし、主体的に学ぶ生徒を育成したいと考えております。

この目標の実現に向けて、これまで、校外より指導者の先生を招いて校内研修を充実させ、授業研究等を推進してまいりました。今後も、各種学習状況調査結果や保護者や地域の皆様からいただきました御意見を授業改善に活かして、学校教育目標の1つである「自ら学ぶ生徒」の育成に繋げていきたいと考えます。

さて、老子の言葉に（出典は老子以外にも諸説あるようですが）、「空腹の子供に、1匹の魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」というものがあります。

空腹の子供に1匹の魚を与えれば、その日の空腹はしのげるのかもしれませんが、しかし、子供にとっては、その日の食べ物にしかありません。これに対して、空腹の子供に魚の釣り方を教えれば、再び空腹になっても自分の力で魚を釣ることができる。すなわち、子供に一生の食べ物を与えたことになるという話です。

このことを授業に置き換えて考えると、「1匹の魚」とは「断片的な知識」といえるかもしれません。変化の激しい現代社会にあっては、知識は絶えず更新され、すぐに陳腐化してしまうものもあります。いうまでもなく知識は大切なものですが、これまで学校は、知識だけを身に付けることにあまりにも多くのエネルギーを注いできた傾向があるのかもしれません。

一方、「魚の釣り方」とは「新しい知識や情報を獲得するため方法」といえるでしょう。これからの社会を生徒が主体的、創造的に生きていくためには、「1匹の魚よりも魚の釣り方」を身に付けさせることが大切かもしれません。具体的には、「学び方」「調べ方」「考え方」「伝え方」といえるのでしょうか。本校では授業を通して、生徒に教えるべき知識はしっかりと教えつつ、社会の激しい変化にも対応できるように「学び方」「調べ方」「考え方」「伝え方」も生徒に身に付けさせたいと考えます。

